

# 【校長室便り】

No.39

H30年12月25日(火) 土佐町小中学校 谷内宣夫

## お正月あれこれ

お正月は、除夜の鐘で穢れをはらったすがすがしい心と体で、年神様を迎え、1年分の新しい命をいただくめでたい日です。豊作を祈願する大切な日でもあります。正しくお迎えして、たくさんの福を授かりたいですね！

☆年神様は、古くから祀られている農耕の神様です。

お正月はその年神様が子孫繁栄・五穀豊穰などの福を授けるため、各家庭に降りてくる日です。

☆門松(かどまつ)は年神様が降りてきて宿る場所であり、冬になってもみどりまつえいきゅうふへんしょうちよういのねがかなま緑の松は永久不変の象徴です。また、祈りや願いが叶うのを「待つ」という思いも含んでいる。注連縄(しめなわ)はそれより内側は神様を迎えるための清浄な場所であることを示しています。

☆鏡餅(かがみもち)は神社でご神体とされる鏡を模した(形どおりにまねた)ものと言われ年神様そのものとみなされます。大小2つ重ねるのは陰と陽(月と太陽)を表しており、五穀豊穰を願っています。鏡餅は11日の鏡開きの日に割って雑煮や汁粉にしています。年神様の宿っていた鏡餅を食べることで神様の力をいただくという意味が込められた行事です。

☆正月の飾りつけについて

・「四手」稲穂が垂れ下がっている様子豊作を表しています。

・「裏白」葉の裏が白く裏表がない心がきれいなことを表しています。

・「ゆずりは」子孫繁栄を象徴しています。

・「橙」(だいだい)実が大きくなっても落ちないことから、家が代々栄えることを願っています。

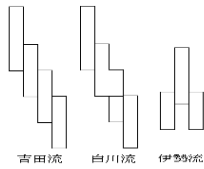
・「串柿」(くしがき)幸福を掻き集めるという語呂合わせ。2個・6個・2個となっているのは「外はニコニコ、仲睦まじく」と願っていることです。

・「伊勢海老」腰が曲がるまで長生きすることを願っています。

・「昆布」よろこぶに通じています。

☆正月飾りは28日か30日に飾るのが一般的。

29日に飾るのは「二重苦」につながるのを避けます。餅をつくのも「苦持ち」と言って避けます。31日は「一夜飾り」と言って嫌われています。



☆お正月が終わった後の飾りは・・・



お正月に飾ったものは、15日に行われる「どんど焼き」で燃やします。残り火で焼いた餅を食べるとその1年は災厄を免れると言われています。このどんど焼きの煙に乗って年神様は帰られるのだそうです。

☆お雑煮は、年神様にお供えした餅や野菜などの収穫物のおさがりを煮炊きしてみんなで食べたのが始まりとされています。

地域によって餅の形や入っているものが違います。



☆めでたいときに使う祝箸は「ハレの箸」と言って、日常に使う

「ケの箸」と違って、箸の両側が細くなっています。両側使えますが一方は自分、もう一方は神様が使うためのものです。神様と一緒に食事していることを意味しています。3が日は同じ箸を使うということだそうです。



☆お年玉は、本来神様にささげたお餅のおさがりをいただくとともにご

りやく利益もいただくというものであったそうです。お年玉の玉は年神様の魂のことでありその姿を丸餅で表しています。家の主が家族や

奉公人に与えていたことからいつしか大人が子どもに

金銭を渡す形に変わっていったようです。



☆年賀状は、目上の人が目下の人に贈る「お年玉」に対して、目上の

人へのお正月のあいさつが「年賀状」です。あいさつに行けないときや遠方の場合に書状にてあいさつとしたのが現在の仕組みになっていったようです。



☆初夢は、元日の夜から2日の朝にかけてみる夢のことだそうです。大

みそかから元旦にかけては、眠らずに迎える

という習慣があったそうです。



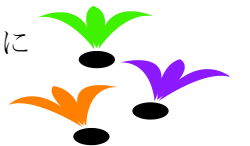
☆凧揚げは、風を受けて勢い良く空に舞い上がる様から、出世・

開運・商売繁盛の縁起物という意味もあるそうです。

☆羽根つきは、羽についている黒い球(無患子むくろじ)という木の

種です。文字通り子どもが病気にならないように

との願いを込めてつきあった遊びなのです。



参考文献「PHP No.800号」廣瀬輝子(「和道」創始者)お正月のあれ

これ、いわれ、作法などを調べていて廣瀬さんの監修企画を見つけました。

大変勉強になりました。普段当たり前のように行っていることにもい

ろいろないわれや、しきたりがあるのでね。お正月を迎えるための準備

を手伝う時これらのことを思い出してみてください。

平成最後のお正月！良いお歳を！！